

宝塚市下水道ビジョン2035が始まります！

市民のみなさまの生活基盤を支える重要な社会インフラとしての役割を果たすため、
これからの10年間に取り組むべき事業と、その目標を定めます。



局地的大雨に備えた

浸水対策に取り組みます。



本編14ページ

令和6年能登半島地震を
きっかけに

**上下水道一体での
耐震化**に取り組みます。



本編
16ページ



水道・下水道の
職員が一体となり
計画を作りました！
耐震化を
進めていきます！

市民のくらしを守るため

防災・減災対策に

取り組みます。



水路の
巡視と清掃



排水ポンプでの
水防活動の様子

本編18ページ

安全・強靱

～ 大雨や地震などの
災害から市民のくらし
を守り備える ～



安心・快適

～ 市民の快適な
くらしを保つ ～



**安全で持続可能な
「宝」の下水道を未来へ**

持続可能な経営にするため、
料金体系などを検証します。

積極的な国庫補助金の活用を
目指します。



本編32ページ

詳細は「経営戦略」を
ご覧ください！

安定 経営

～ 経営基盤を強化し、
効率化・合理化を
推進する ～



連携・協働

～ 市民の下水道への
理解を形成し、
民間企業や上水道との
連携を強化する ～



**宝塚市下水道ビジョン2035を
支える基本理念と
4つのキーワード！**

令和7年1月に埼玉県八潮市内で
起きた流域下水道管の破損・
道路陥没事故を教訓として、
老朽化対策を強化します。



本編28ページ



災害対策に関する情報など、
満足度の高い情報発信
を目指します。

官民連携などにより、
市民サービスの向上
を目指します。

上水道、近隣自治体との
連携を目指します。

本編38ページ



マンホールカードを
指定の施設で配布しています！

宝塚市の公共下水道

汚水処理・雨水処理としての下水道の役割

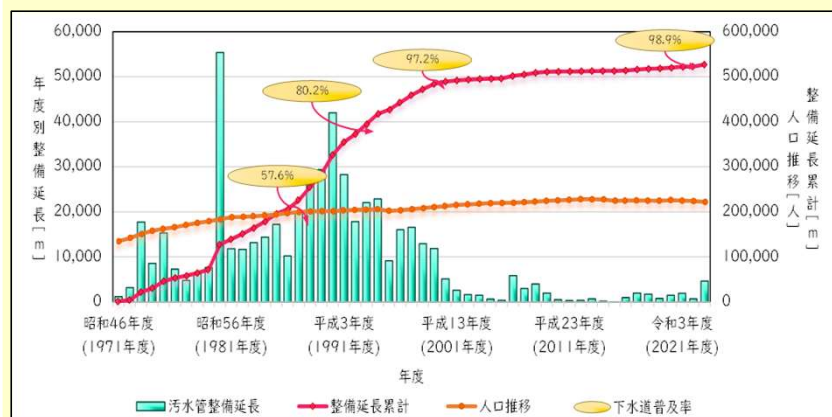
毎日のくらしのなかで、台所、洗濯、炊事、風呂、トイレなどから出る生活排水や工場などから出る排水を汚水と呼びます。下水道は、この汚水を適切に処理し、「**快適な生活環境の保全**」及び「**公共用水域の水質保全**」に寄与する役割があります。本市の汚水処理は、南部地域と北部地域とで処理方式が異なり、南部地域では公共下水道に接続し、また、北部地域では合併処理浄化槽を設置し処理を行っています。なお、本市は都道府県が保有する終末処理場へ2以上の市町村が接続し処理を行う**武庫川下流流域下水道**と**猪名川流域下水道**の2つの流域下水道へ接続しています。

また、下水道は汚水処理のみならず、「**浸水の防除**」のための**雨水排水**の役割も担っており、本市では汚水と雨水を分離して排除する方式である**分流式**を採用しています。雨水事業については、1時間当たりの雨量46.84mm(6年に1回の確率)の降雨強度を対象に雨水排水計画を策定しています。

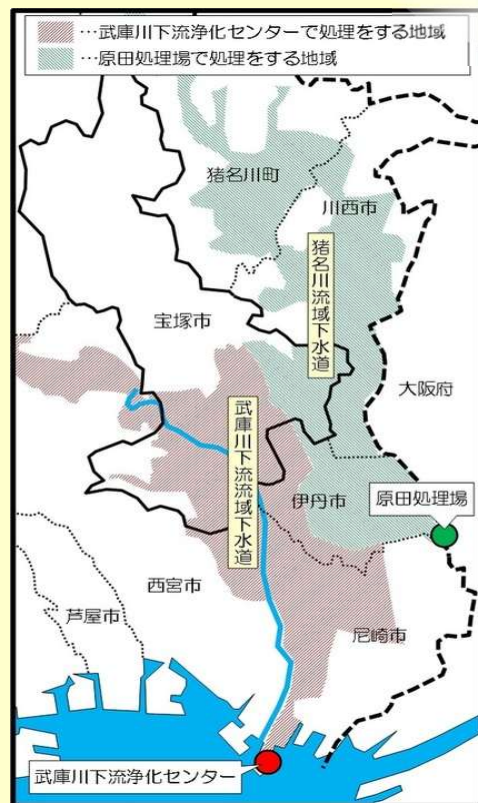
下水道整備と人口普及率の変遷

本市の下水道(汚水)管路施設は、昭和46年度(1971年度)から整備を開始しました。その後、人口が増加した昭和50年度(1975年度)頃から震災の直前まで集中的に整備し、下水道(汚水)人口普及率は8割を超えました。「宝塚市私道排水設備布設工事助成制度」を設け、私道部の管渠布設を支援し、また、市民の水洗化工事に対して補助金または貸付金による助成制度「宝塚市水洗便所改造資金助成制度」を実施することでも、

下水道(汚水)人口普及率と水洗化率の向上に努めてきました。その結果、令和5年度(2023年度)末時点の**下水道(汚水)人口普及率は、市全体で98.9%**、北部地域の合併処理浄化槽の処理人口を除く市街化区域のみでは99.8%となっています。また、管渠の総延長は約539km、水洗化率は99.6%であり、整備・普及ともに概成しています。



下水道(汚水)管路整備延長と人口推移、下水道(汚水)人口普及率



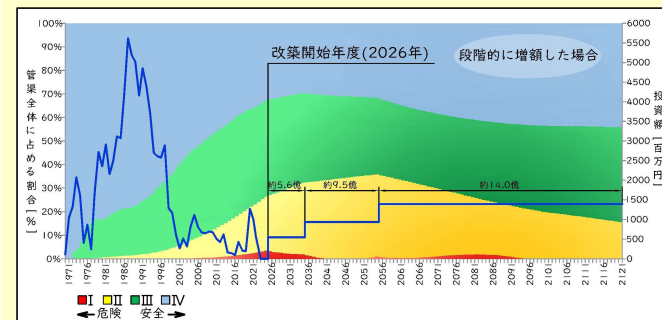
宝塚市は2つの流域下水道・処理場につながっています

【宝塚市下水道ビジョン2035・概要版】

宝塚市公共下水道事業の現状と基本課題

【下水道ストックマネジメント計画の推進】

本市では老朽化管渠の増加に伴い改築事業への投資額(建設改良費)を段階的に増加させ、**施設全体が比較的健全な状態に保たれるよう、計画的かつ効率的に下水道事業を推進していく**必要があります。このように、施設の状況と効果的な投資を検討したものが**下水道ストックマネジメント計画**です。



【計画的な投資を支える財源の確保】

将来にわたって**安定的かつ持続的に下水道サービスを提供していく**ためには、計画的な投資を支える財源を確保していく必要があります。今後は人口減少などにより一層、経営環境が厳しくなることから、使用料改定により、**適正な使用料収入の確保**に努める必要があります。



Point!

- ・公共下水道事業の抱える課題が顕在化してきた現在、これまでの10年間とこれからの10年間では公共下水道事業に求められることや取り組むべきことが異なってきました。
- ・より効率的かつ効果的に事業を運営していくため、抜本的に考え方を**変えるべき部分と、普遍的な課題として踏襲すべき部分と**を見極め、本市の課題を改めて抽出しました。
- ・人口減少等による収入減少が見込まれる一方、施設の更新や耐震化に多くの費用が発生することから、**多様な課題に対応するための方針として、「宝塚市下水道ビジョン2035」を策定します。**